

佳作

## 牛の赤ちゃん

鹿児島県 中種子町立南界小学校二年 日高 心陽

わたしのおじいちゃんの家には、五頭のはは牛がいます。そして、わたしのしょうらいのゆめはじゅういしになることです。

これは、じゅういしになるためにたいけんしたきちょうな話です。それは、牛のじゅっさんのできごとで、いのちのたいせつさをおしえてもらいました。

三月にじゅっさんをひかえたはは牛がいました。おじいちゃんはよてい日をすぎても生まれないう牛のことをともしんぱいしていました。よてい日を二週間ぐらいすぎてから、おじいちゃんはじゅういしさんに牛が生まれないうことをでん話でしらせました。すると、じゅういしさんは、

「それはおかしいから、今から見に行く。」  
と言って、おじいちゃんの牛小やにきてくれました。

とうちやくしてすぐにじゅういしさんは、はは牛のおなかにちょうしんきをあてました。牛の心ぞうの音を聞いたじゅういしさんは、  
「心ぞうの音が聞こえない。」  
と、言いました。

じゅういしさんは、はは牛にじんつうそくしんぎいをちゅうしゃしました。そして、

「あしたまでまってみよう。」

と言って、かえりました。じゅういしさんがかえたあとも、わたしはとても心ぱいではは牛を見ていました。でも何もしてあげられませぬ。

つぎの日、じゅういしさんがようすを見にきました。はは牛は、生むようすがなかつたので、じゅういしさんは、子きゆうに手を入れて、赤ちゃんをとりだそうとしました。わたしは、「はは牛はいたくないのかな」と思いました。

しばらくして、赤ちゃんがとりだされました。それは、いつもじゅっさんを見てなれているわたしにとっては、はじめて見る牛のすがたでした。とりだされた子牛は、まだすこししか牛の形をしていなくて、とても小さかつたのでした。

おじいちゃんは、その牛を見てとてもぞんねんが

っていました。そしてはは牛に、

「いたかったろう。」

と、言って体をさすってあげました。はは牛の目になみだみたいなものが見えました。

わたしは、しんで生まれた牛を見てなみだがでそうになりました。そして、どうしていままでのようにそだててきたのに、この牛だけがしんでしまったのか、かんがえました。おじいちゃんにたずねると、「じいちゃんにも、わからない。どうしてかな。」と、くびをかしげました。

わたしは、今までもおじいちゃんと牛のせわをしてきました。これからは、もっともっと牛のせわのお手伝いをして、一つ一つのいのちを大じにしていきたいです。そして、たくさんの牛の赤ちゃんの元気なすがたを見たいです。